

2024年度 政策討論会 第二分科会（第5回）要点記録

- ・ テーマ ベイエリアのリノベーションについて
- ・ 日時 2024年11月22日（火）
- ・ 場所 第1委員会室
- ・ 会議時間 10：00～10：43
- ・ 出席者 反甫 旭（座長）
 中岡 佐織（副座長）
 河合 達雄
 田中 市子
 宇野 真悟
 栗原 佳一
 米田 貴志
 京西 且哲
 ※座長、副座長以外は議席番号順
- ・ 決定事項 1. 次回、理事者を招へいし、意見交換会の中から見えた課題を踏まえて行政として何ができるかを討論。
 2. 招へい対象理事者
 （1）波積 副市長
 （2）舟橋 魅力創造部長
 （3）上東 産業政策課長
 （4）高橋 農林水産課長
 3. 今後の討論会の予定について
 次回日程 12月24日（火） 10：00～ 第1委員会室
- ・ 発言要旨 各議員の発言内容は別紙のとおり。

反甫座長

- ・今までいろいろな意見を聞いてきたが、最後にまとめるためにも市の意見も聞いておきたいので、次回理事者を招へいしてはどうか。

中岡副座長

- ・行政との関りが非常に不足していると感じた。個々に考えるより、今後は市側から、近隣の決定事項・提案・お願い、諸々お伝えし、調和を取りながらベイエリアの未来設計をしていくべき。
- ・土地、建物の所有者を明確にしたい。
- ・理事者を招へいし、カンカン含めベイエリアに関連する団体等に行政の描く現状についての意思疎通を取ってほしい旨を伝えるとともに、今後のどういったことを提案していけるか模索、討論したい。

河合議員

- ・カンカンベイサイドモール担当者から今後3、4年かけてリノベーションする計画があると聞いて我々としてはそれを見守るしかないが、今後は年に数回でもコミュニケーションを取ることが大事であると思う。

田中議員

- ・岸和田市の策定した「岸和田旧港地区周辺の魅力づくり構想（R4.3）」P21 には、6. 構想の推進にあたっての項で、「構想を効果的に推進していくためには、市民や企業、周辺既存事業者に限らず市域全体の各種団体を含めた民間活力の導入を視野に入れ、こうした機関がそれぞれ主体として連携し、一体的に推進していくことが重要である。」と書かれている。この一文からみても、市として連携のために役割を果たさなければならないのではないかな。

宇野議員

- ・10月19日～20日に泉州海の万博をアクアパークで開催していたが、場所が分かりにくかった。カンカンは民間施設だが、浪切ホールは市立施設である。掲示物等の案内はできたのではないかな。また、当日は民間医療機関が浪切ホールでイベントを開催しており、市民健康相談などを行っていたが、泉州海の万博を運営していた企画課は把握していなかった。イベントなどの情報について役所内での共有すらされていないことは問題である。
- ・ウォータフロント協議会については、令和2年から開催していないという話である。コロナウィルス等の影響はあったのかと思うが、年一回の書面開催等を行うのが普通で

あり、状況について確認が必要である。前回カンカンの状況を確認したが、年に何回も集まって会議を行うというのは負担が大きいということなので、オンラインでの開催や、市が情報を集約し、メールなどでのカンカンや漁連などへの情報共有など、組織の在り方についても変更が必要であるとする。

桑原議員

- ・ウオーターフロント協議会が岸和田ベイエリアの各エリアとの連携や情報共有を行い、活発に運営し働きかけていく事が必要と思われる。

米田議員

- ・J L Lがデベロッパーではないことが大きな点と考える。管理している物件については（賑わいづくりに向けた取組みを）行なっていくのだろうけど、魅力づくり構想全体を生かした取組みは困難なのかも知れない。このままだと、各個での取組みとなりかねないと危惧する。一方で、大阪府のクレセント・リンク・オオサカベイと合致していくのとも見えない。その点も含め、構想全体のプロデュースを如何に図るかが見えない。やはり魅力づくり構想は、全体をプロデュースする人がいないと前に進まないのではないかと考える。

京西議員

- ・テーマをベイエリアのリノベーションと決定した理由に、岸和田旧港地区周辺の魅力づくり構想の存在があり、構想の実現がベイエリアの活性化であると考えている。しかし、構想としての活動を確認することができず、その現状の姿を知ることから始めなければならない。
前回のJ L Lリテールマネジメント(株)訪問で確認できたことは、単独での商業活動を計画していることと、魅力づくり構想を理解していないこと、構想への参画や連携についても限定的であった。
代表的な施設を運営する企業の経営方針が明確になったことから、関係団体の意向確認を行い、構想計画実現に向けた役割を整理する必要がある。
各団体が独自の活動に止まるなら、岸和田旧港地区周辺の魅力づくり構想の位置づけを見直さなければならない。
併せて、主管課の岸和田市魅力創造部産業政策課の役割を定め、明確でない事業名と予算、担当職員の業務についても確認する必要がある。
先ず、関係団体が同じテーブルに着き、情報共有や意見交換を行うところから始めなければならない。